

フジクローム 100iX [RX]

FUJICHROME 100iX

1 特長及び用途

フジクローム 100iX [RX] はアドバンスドフォトシステム用に設計された ISO100 の写真感度をもつデーライトタイプの高画質カラーリバーサルフィルムです。このフィルムは ISO100 では、最高クラスのシャープネスと粒状性をもつばかりではなく、クリアーで忠実な色再現性、そして豊富な階調再現性と整った階調バランスをもった汎用フィルムです。

なお、新たにポリエチレンナフタレートベースを採用し、耐久性が向上しています。

特 長	結 果
● 高解像力で超微粒子	● ISO 感度 100 クラス最高水準の粒状性と解像力
● 忠実な色再現と階調再現	● 忠実な色相と原色を生かす高彩度、微妙な色調と階調をリアルに再現
● CR-56/E-6 処理適性	● 他のフジクロームフィルムと同様に処理可能

2 写真感度

光 原	写真感度	使用フィルター
デーライト	ISO 100	不 要
タングステン電球 (3100)	ISO 32 [※]	LBB-12 ^{※※} (No80A ^{※※※})

※ 指定フィルターを使用した時の実効感度を示しています。

※※ 富士色温度変換フィルター

※※※ コダックフィルター

3 サイズ、乳剤番号及び DX コード

サイズ …………… 40 枚撮り

乳剤番号 …… #101 ~

DXコード …… 38-4

4 露光ガイド及び各光源での撮影方法

露光の決定には露出計の使用をお勧めします。露出計を使用しない場合は次表を参考にしてください。

昼間・屋外 (露光時間 1/250秒)

	快晴時の海・山・雪景色	快晴	晴	明るい曇	曇・日陰
絞り	f/16	f/11	f/8	f/5.6	f/4

注) ・上の表は日の出 2 時間後から日没 2 時間前までに適用されます。

- ・上の表に対し夏季は 1/2 絞り絞りこみ、冬季は 1/2 絞り開けます。
- ・極端に明るい(または暗い)被写体、または逆光の撮影では上の表に対し約 1 絞りの調整を必要とする場合があります。

デーライト (昼光)

このフィルムはデーライトタイプとして設計されているため、昼光下での一般的な被写体の撮影にはフィルターは特に必要ありませんが、次のような状況下での撮影には次表に示すフィルターの使用をお勧めします。

被写体の状況	フィルター	露光量補正
晴天時に日陰、日陰の多い風景	UV フィルター 富士 SC-40 または SC-41 (コダック No. 2C または No. 2B)	不 要
快晴の遠景、雪景色、海浜、航空写真など広範囲な風景		
植物の近接撮影および明るい色の被写体 (陶磁器など)		

色温度が高・低いずれかにかたよっている場合は、次表を参考にして補正してください。

被写体の状況	フィルター	露光量補正(絞り)**
色温度が高い場合： 曇り日の風景・人物、 快晴の日陰	LBA-2* (コダック No. 81A)	+1/3
色温度が低い場合： 朝・夕の太陽に照ら された風景・人物	LBB-2* または LBB-4* (コダック No. 82A, または No. 82C)	+1/3 ~ +2/3

※ 富士色温度変換フィルター ※※+は「絞りを開ける」

ストロボ

- ストロボ撮影の場合、一般的にはフィルターは不要です。ストロボは、その有効光量やカラーバランスがメーカーによって異なり、また使用時間などによって変化するため、あらかじめテスト撮影を行って確認してください。
- ストロボ撮影の時の絞りは、下記の式により算出される値に合わせてください。

$$\text{絞り} = \frac{\text{ISO 100 のときのストロボのガイドナンバー}}{\text{ストロボから被写体までの距離 (m)}}$$

- オートストロボを使用する場合は、フィルム写真感度を ISO 100 にセットして使用してください。
- ストロボ撮影の場合は、被写体の周囲の反射などによって露光量が変わることがあるため、使用するストロボの使用説明書に従ってください。

フォトリフレクターランプ (昼光色写真電球)

- 昼光色写真電球は他の人工光源に比べ露光不足になりやすい光源であるため、露出計で得られた露光条件よりも、露光を多少増量しなければならない場合があります。
- 使用する電球は同メーカーのものでも、点灯電圧や使用時間によって光量やカラーバランスが変化するため、あらかじめ使用する器具で露光条件を確認してください。

蛍光灯

- 蛍光灯を主光源として撮影する場合は、光源の特性上、蛍光灯の種類によって色味の差が大きくなるため、下表を参考にし、カラーバランス、露光量を補正してください。
- 蛍光灯はメーカーや総点灯時間によっても明るさや色味に多少の差が出るため、厳密な仕上がりを望むときは、あらかじめテスト撮影により確認してください。

蛍光灯の種類	白色型 (W)	昼光色型 (D)	三波長型 昼光色(EX-D)	三波長型 昼白色(EX-N)
色補正フィルター*	35M	30R+15M	25R+5M	25M
露光量補正(絞り)**	+1	+1½	+1	+1

(露光時間 1/4秒)

- ※ 富士撮影用色補正フィルター CC シリーズ (コダック CC フィルター)
- ※※ 露光量の補正には色補正フィルターの露光倍数が含まれています。フィルターなしの状態での露出計指示値に対して、この表の補正をしてください。+は「絞りを開ける」
- 注) 露光時間は1/30秒より長い低速で使用してください。
- 注) 露光時間が32秒以上の場合には相反則不軌の補正も加えてください。

タングステン電球

- 写真撮影用タングステン電球 (リフレクターランプ) での撮影には、富士フィルターLBB-12 (コダックNo. 80A) を使用してください。この場合、露光量補正としてフィルターを使用しない露出計の指示に対し1%絞り開ける必要があります。
- 家庭用タングステン電球は一般に撮影用電球に比べて色温度が低いため、この場合はさらに富士フィルターLBB-2 (コダックNo. 82A) を追加してください。この場合は露光量補正として2絞り開ける必要があります。

ミックス光

- ミックス光の場合は、主体になっている光源にあわせてフィルター補正を行うのが基本です。

5 撮影上の注意事項

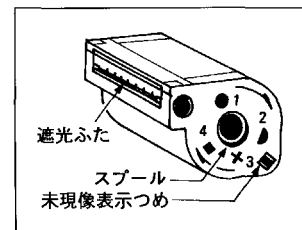
ストロボ、フォトリフレクターランプ、蛍光灯、タングステン電球、水銀灯などの人工光源はメーカー、種類、点灯電圧、総点灯時間によって、明るさや色がそれぞれ変化する場合があります。また照明光の光量を調節したり光を拡散させる目的で用いられるリフレクター、ディフューザーなどはその特性の違いによって、同様の変化が生じる場合があります。

6 カートリッジフィルムの取扱い

- (有効期限) 撮影は、フィルムの外箱にある有効期限内に撮影し、現像は、撮影後速やかに行ってください。
- (開封) 冷凍保存されたフィルムは、室温に戻してから、開封してください。温度が低いうちに開封すると、結露してフィルムが使えなくなるおそれがあります。
- (フィルムの使用状態) カートリッジ装填前に、カートリッジ側面のマークを見てフィルムの使用状態を確認してください。各マークの意味は、つぎの通りです。

1	<input type="radio"/>	未撮影
2	<input type="radio"/>	途中まで撮影済み (カメラ機種によっては続けて撮影できます)
3	<input type="radio"/>	撮影終了・未現像
4	<input type="checkbox"/>	現像済み

フィルム先端部はフィルムカートリッジ内部に収納されています。カートリッジを装填すると、フィルムはカメラの中で自動的に引き出されますので、そのまま装填して撮影して下さい。フィルムカートリッジの遮光ふた (出入口) をカメラ外で開けたり、スプールを動かしてフィルムの使用状態表示マークをズラしたりしないで下さい。また、フィルム使用状態表示マーク脇のつめを現像前に折らないで下さい (つめが折られた状態は現像済みを表します)。

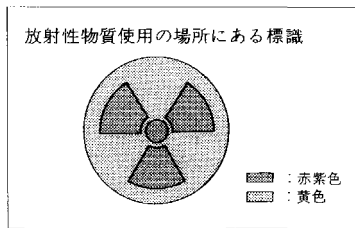


注 このフィルムにはカメラの撮影データなどが記録できる磁気層がコーティングされています。このデータは、プリント品質の向上やマウントフレームへの撮影日等の印字などに利用できます。

- (装填から撮影までの時間) フィルムを装填したできるだけ短期間に撮影を完了し、速やかに現像処理して下さい。
- (X線による手荷物検査) 空港の手荷物検査時に使

用されるX線はフィルムに悪影響（カブリの発生）を及ぼす場合があります。X線が強いほど、フィルム感度が高いほど、またX線の（照射）累積回数が多いほど、その影響は大きくあらわれます。したがって、その都度、荷物からフィルムを出し、フィルムにX線をあてないように空港の係員に申し出て、手検査を受けることをお勧めします。

- （放射性物質取り扱い施設） 病院、工場、研究室などの放射線を取り扱う場所（下の標識のある場所）でも、フィルムは悪影響を受けるおそれがあります。



- （磁気層） 磁気層がコーティングされていますので、磁気を帯びているものは近づけないでください。

7 フィルムの保存

現像処理前

- 未撮影、撮影済みに関わらず現像処理前のフィルムは温度・湿度が高いほど写真感度、カラーバランス、物理的な特性などに悪影響を受けます。フィルムは次のような条件に保存してください。

- 通常又は短期保存：温度 15℃以下（冷蔵庫）
- 長期保存：温度 0℃以下（冷凍庫）

- 新建材や新しい家具、ペンキ、接着剤などから有害なガスが発生することがあります。カートリッジを装填したカメラはこのような物の近くに保存しないでください。
- 保存されたフィルムを使用するときは室温に戻して（冷蔵は3時間以上、冷凍は6時間以上待つ）から開封してください。温度が低いうちに開封すると、結露して使えなくなることがあります。

現像処理後

光および高温、高湿は処理後のフィルムを変退色させる原因になります。従って、処理済フィルムはマウントしたり、スリーブに入れて通風の良い乾燥した冷暗所に、次のような条件で保存してください。

- 通常の保存：温度 25℃以下、相対湿度 30～60 %
- 長期の保存：温度 10℃以下、相対湿度 30～50 %

注 このフィルムの色素は他の色素と同様に年月の経過により変化します。

8 現像処理

フジ CR-56 処理で現像処理してください。Kodak E-6 処理でも現像処理できます。

9 観察光源

標準のスライドビューアーを使用してください。光源の光質や明るさにより見え方が異なるので ISO/ANSI 規格に合った光源を使用してください。

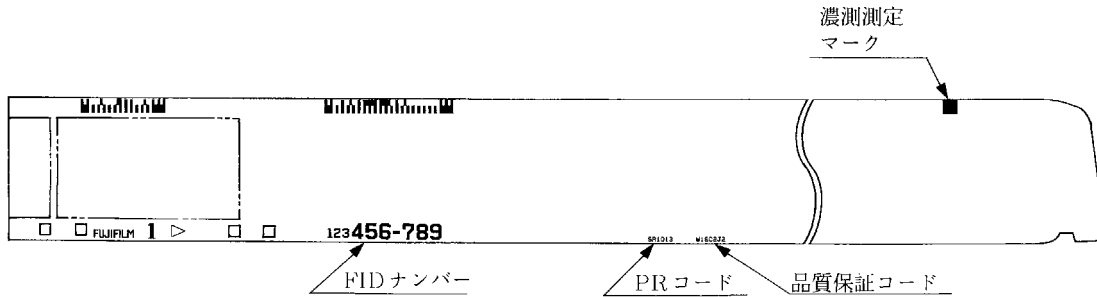
※ ISO 規格 (ISO/DP3664-2) では、ビューアー表面で基準光の色度 CIE イルミナント D₅₀ (D : Daylight)、相関色温度 5000K、平均輝度 1400cd/m² ± 300cd/m²、輝度の均一性 75% 以上、光の拡散性 90% 以上、平均演色評価数 Ra90 以上と定められています。トランスパレンシービューアーはこれらの値を満たしていません。

10 プリントとデュープ

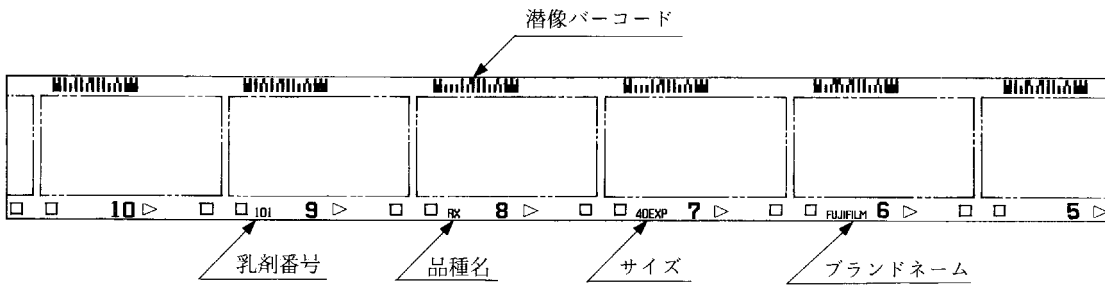
処理後のフィルムからフジクロームペーパーまたはインターネガフィルムにプリントできます。フジクロームデュープリケーティングフィルム CDU タイプ II でデュープを作成できます。

11 現像処理後のサイドプリント

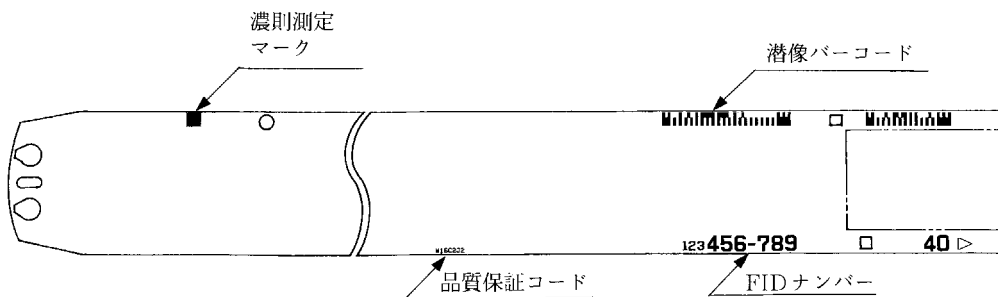
フィルムリーダー部分



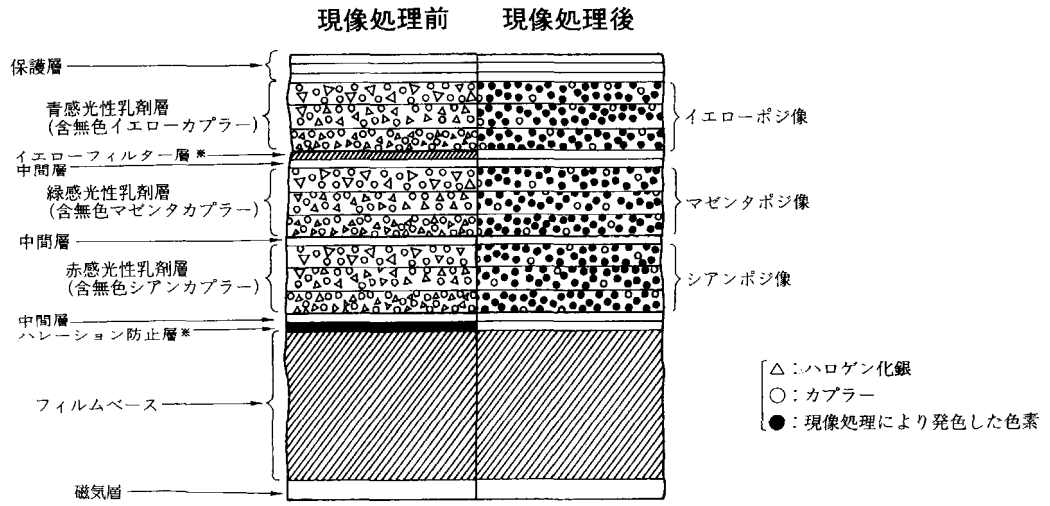
フィルム中間部分



フィルムトレーラー部分



12 層構成



※現像処理後、無色透明となります。

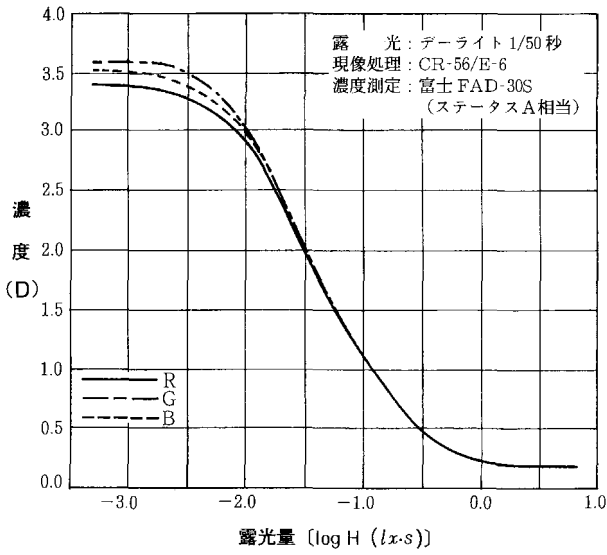
13 拡散 RMS 粒状度 ……10

マイクロ濃度計の測定アパッチャー : 48 μm ϕ
試料の濃度 : 最小濃度 + 1.0

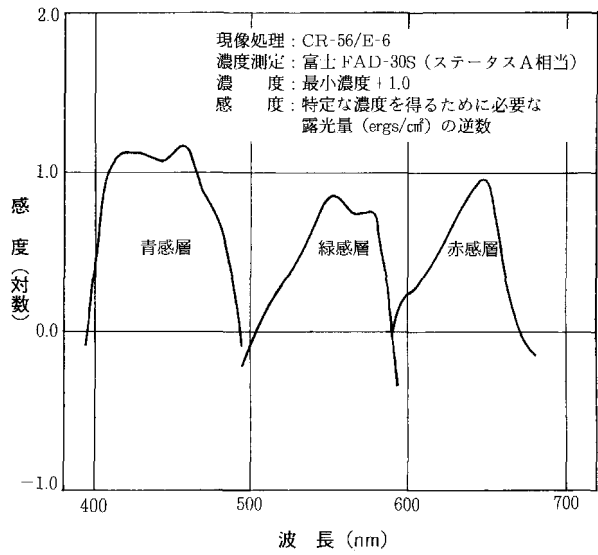
14 解像力

チャートのコントラスト 1.6 : 1 …… 60 本/mm
チャートのコントラスト 1000 : 1 …… 140 本/mm

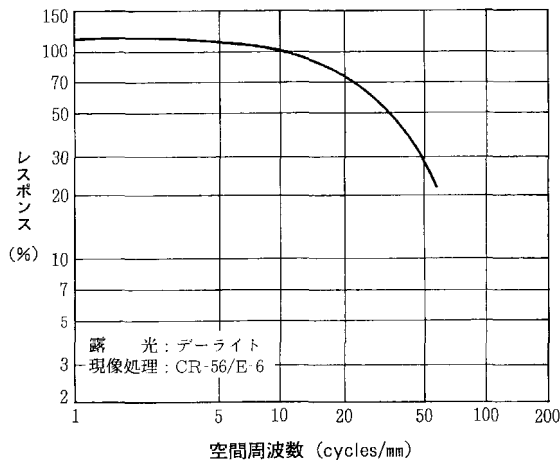
15 特性曲線



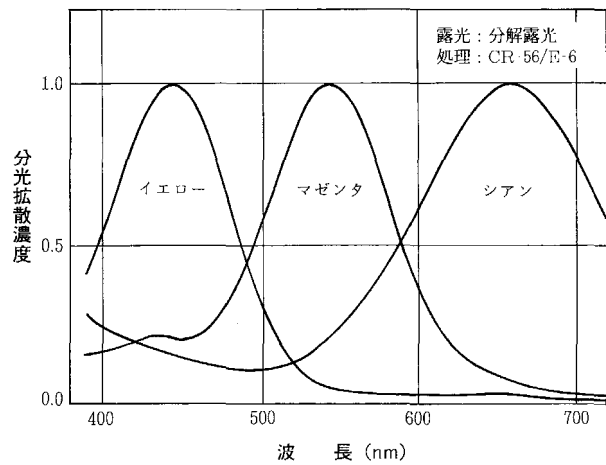
16 分光感度曲線



17 MTF 曲線



18 色素の分光濃度曲線



注 このデータシートに記載されているデータ類は、当社で通常実施している試験による結果を表示するものです。これらのデータは、当社の製品規格や個々の製品の性能を保証するものではありません。また、製品の改良によって、これらの特性は予告なく変更されることがあります。



富士写真フイルム株式会社

プロフェッショナル写真部

東京都港区西麻布2-26-30 〒106
 大阪市中央区備後町3-5-11 〒541
 札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館3F 〒060
 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル7F 〒980
 名古屋市中央区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル11F 〒460
 広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター11F 〒732
 福岡市博多区住吉3-1-1 〒812

TEL 東京 (03) 3406-2094
 TEL 大阪 (06) 205-6491
 TEL 札幌 (011) 241-7164
 TEL 仙台 (022) 265-2121
 TEL 名古屋 (052) 203-5261
 TEL 広島 (082) 256-3311
 TEL 福岡 (092) 281-0231